

本章では、『教材』を学校や家庭で利用してもらう場合の活用方法を考えてみました。これは一例にすぎませんので、読者の皆さんのそれぞれの立場で経験と工夫をもち寄って、『教材』をいろいろに活用してください。日常生活のできごとを『教材』の内容と結びつけて話題にされれば、青少年たちにはより理解しやすいものと思います。この『教材』が広く学校や家庭で利用されることによって、青少年たちが消費者信用に対する正しい知識と健全な金銭感覚を身につけることができればと願っています。

◆ 学校教育のなかで

食品の安全、欠陥商品などいわゆる消費者問題が多発し、多様化する今日、学校教育に消費者教育を求める声かとみに強まっています。とくにキャッチセールスなどの悪質商法の被害やクレジットトラブルの多発が契機となって、金銭教育やクレジットやカードなどの消費者信用の問題を学校教育で取り上げることは、緊要な課題になっています。

それは、複雑な経済社会のなかで、被害にあわないための知識やノウハウを知ることはもとより、膨張するカード社会においてどのような家庭生活を営むか、あるいは取り引き社会のなかで、青少年や高齢者などの“社会的弱者”を犠牲にする加害者側に立たないためにどうすべきかなど、一生の生き方にかかわる問題に連なるものです。

この『教材』は、クレジットカードや消費者ローンなどの消費者信用のしくみと今日の経済の根幹をなす“金利”について基本的な知識を身につけてもらうことを目的とし、クレジット時代の下で、自立した生活者として計画的な生活設計が必要であることを子どもたちとともに具体的に考えていけるよう編集されています。ホームルームでのクラス討論や公民科、家庭科、商業科などそれぞれの教科や、「総合的な学習の時間」における独自の展開も可能です。先生方の創意ある活用を期待します。以下、参考までに、活用の視点を例示します。

① ホームルーム活動での活用例

中学や高校を卒業して社会人になったり、大学生になればすぐにクレジットやカードを利用する機会にぶつかります。今日、自らクレジットやローンの落とし穴に落ちこんだり、保証人になった友人を巻き添えにする若者のトラブルが増えています。消費者信用について基本的な教育を十分に受けることなく、何らの防衛手段ももたないまま“便利さ”だけを吹きこまれて社会に送り出されたとすれば、当然の結果といえましょう。「学校でもっと教えてくれればよかったのに！」という卒業生の声もあります。公民科や家庭科などの教科で深められることが重要ですが、ホームルーム活動や、卒業をひかえた期末の時限を利用してのクラス討論の場は有効に思えます。ぜひとも、在学中、多くの生徒にこの『教材』くらいは読ませたいものです。中学生と高校生では、それぞれ習得している社会科学的な知識に違いはありますが、物に対する欲求・関心にはあまり差がないようですので、日常生活における具体的な例をとりあげて解説や討論をすることで、子どもたちの発達段階に応じた活用ができるでしょう。

【視点】

- 学習目的を話し、一定の時間を計画的に設定する必要があります。できるだけ連続して学習した方が効果があると考えられます。
- 身近な事例を取り上げて、多くの生徒に共通する具体的なケース学習として活用することもできるでしょう。
- 集団で学習する場合、とかく「自分には関係がない」となりがちですが、多様な事例や資料から“他人ごと”ではないことを理解させることが重要です。
- 生徒だけでなく、親にも学習してもらうため、PTAの会合で取り上げたり、三者（生徒・親・教師）で内容を決めて、学習することも可能です。

【学習の定着のための活動例】

- 生徒の買いたいもの（欲しいもの）ベスト1を調査してみましょう。購入すると仮定してその金額を調べ、どんな購入方法があるか考えさせます。
- 上記のものを買わないと仮定して、その代わりにどんな工夫があるか考えさせます。
- 生徒に、家計状況を保護者に聞くなどして収入と支出にどのくらいお金がかかっているか、調べさせることも考えられます。家計の実態を知ったうえで、現在の自分の生活や教育のためにかかる費用、近い将来の自分（入学や就職など）にかかる費用を調べさせ、生活に本当に必要なものは何かを見直しできるような生活感覚をもたせたいものです（典型的事例を使ってもよい）。
- 悪質な商法の事例や新聞記事をもとに、その被害者にならないようにするだけでなく、加害者になる場合もあることを認識させ、なぜ、どのようなとき加害者になるのか、原因・背景を考えさせます。
- 具体的な事例を設定して、クレジットやローンの利息や返済金の計算もしてみます。

② 公民科での活用例

今の世の中で、ひとつの家族（ひとりの人間）が、人間らしい生活をするには、どれだけの収入が必要なのか、また一方、実際の賃金水準は、男女・年齢別の平均ではどのくらいなのか、という働く者の生活実態も明らかにして、現実の生活について考えさせていくことが、公民科の学習を深めるうえでも有効です。

高校の「現代社会」、「政治・経済」の中の経済学習や「倫理」の学習の中でも関連して扱える題材です。今後、高度情報化がいつそう進む社会になって、いわゆるカード社会・「携帯」社会・インターネット社会はさらに進化するでしょうし、一方、プライバシー保護の問題も急務となってくるでしょう。カード社会のしくみを理解させ、同時に、高度情報化社会とプライバシー保護の問題などについても関連させて考えさせていく必要があると思います。

【視点】

- 新聞記事から、カード・クレジット・多重債務問題など関連あるものを集め、消費者

信用の現状と問題点をまとめさせ、発表させましょう。新聞クリッピングは社会認識を深める作業として有効です。

- クレジット社会・カード社会の問題点の背景・原因を経済的側面から考えさせましょう。
- 同様に社会的背景を、人間の生き方・価値観、民主社会の形成などの面からまとめさせ討論させましょう。今を思う存分楽しむ生き方をどう考えるか、クレジット利用の問題と絡めて自由な意見交換ができるでしょう。
- 借金をしないで生活するにはどうしたらよいか、まとめさせましょう。社会保障・福祉の水準を考察する際に、生活保護の受給水準や平均的な必要家計費なども調べさせましょう。

【「現代社会」からの関連項目の抜粋】

- | | |
|------------------|---|
| 私たちの生きる社会 | —現代社会における諸課題，幸福・正義・公正 |
| 青年期と自己の形成 | —自己実現と職業生活，勤労を尊ぶ精神 |
| 個人の尊重と法の支配 | —国民の権利の保障，法と規範，自由・権利と責任・義務 |
| 現代の経済社会と経済活動の在り方 | —市場経済の機能と限界，政府の役割，経済活動を支える私法に関する基本的な考え方，金融の意義や役割の理解，クレジットカードや電子マネーなどの普及によるキャッシュレス社会の進行，雇用動向，社会保障制度の役割，個人や企業の経済活動における役割と責任，消費者に関する問題，契約に関する基本的な考え方，消費者の権利の尊重と消費者の自立支援，高金利問題・多重債務問題 |
| 共に生きる社会を目指して | —持続可能な社会，現代に生きる人間としての在り方生き方 |

③ 家庭科での活用例

家庭科では、一人一人が自立した消費者・生活者となるために、なるべく生徒の身近な事例を用いて学習を進めることが大切です。「家庭総合」，「家庭基礎」などの各科目では、家庭の経済生活，消費者の権利と責任などについて理解させるとともに、現代の消費生活の課題について認識させ、環境にまで配慮した消費行動がとれるようにすることをねらいとしています。とくに、高等学校家庭科では、生涯の生活設計を扱うこと、消費者の権利と責任について契約、消費者信用、多重債務問題などを取り上げて具体的に扱うことが求められています。しかも、これらの学習は、経済のしくみや法律ともかかわって、難解な事項が多いように思われます。公民科などとの連携を図るとともに、最新の情報を入手したり本誌を活用したりして、消費者として主体的な行動がとれるように指導を進めていただくことが期待されます。

【視点】

- 一人暮らしをすると仮定して、生活費がどのくらいかかるかを計算させるなどが考えられます。その際、マンションを借りるとか、車が欲しいのでローンを組むなどの事例

を取り上げるとよいでしょう。契約にあたって、どんな条件が求められているのか、また、費用はどのくらいかかるのかなど、利息計算や契約書への記入などの具体的な事項を含めて取り扱い、消費者としての主体的な判断の必要性について考えさせましょう。

- 店舗販売、通信販売、訪問販売などの販売方法の特徴と契約の内容と条件について調べさせることなどが考えられます。その際、返品、取り替えの可・不可などについて、資料などをもとに調べさせましょう。
- さまざまなクレジットカードとその約款のコピーを持ち寄り、クレジットの種類、機能、それぞれの特徴や使用にあたっての留意事項などについて、比較検討することなどが考えられます。その際、クレジットカードを持つということの意味や契約の重要性について、しっかり認識させるようにすることが重要です。
- 消費生活センターなどで、消費者のトラブルになっている事柄について調べ、どこに問題があるのかについて、グループ討論することなどが考えられます。その際、近年若者の被害が大きくなっているインターネット取り引きについても取り上げ、具体的に検討するようにしましょう。

【「家庭基礎」からの関連項目の抜粋】

- | | |
|---------------|--|
| 消費者問題と消費者の権利 | —消費者の権利とその実現の在り方、消費者保護に関する施策、契約や消費者信用、多重債務問題 |
| 生涯の経済計画とリスク管理 | —家計管理の重要性、経済計画とリスク管理の重要性、クレジットカードや電子マネーの普及などキャッシュレス化による家計の変化、情報の氾濫と慎重な意思決定 |

【「家庭総合」からの関連項目の抜粋】

(生活における経済の計画)

- | | |
|----------------|---|
| 資金管理とリスク | —不測の事態に備えるリスク管理の方法、個人の資金管理の基本的な考え方、ローン・クレジットの利用、基本的な金融商品 |
| キャッシュレス社会とその課題 | —クレジットカードや電子マネーの普及などキャッシュレス社会の家計に与える利便性と問題点、消費者信用の利用に伴う金利負担（具体的な計算例による理解）、カード破産など多重債務問題 |

(消費者の権利と責任)

- | | |
|--------------|--|
| 社会の変化と消費生活 | —商品やサービスの流通や販売方法の多様化、複雑化 |
| 消費者問題の現状と課題 | —売買契約、訪問販売や通信販売などの販売方法の特性、問題のある販売方法、被害救済のための基本的な法規 |
| 消費者の権利と自立の支援 | —消費者基本法、消費者の権利、消費者支援の諸制度、消費者の権利の実現と責任を自覚し行動する責任 |

④ 商業科での活用例

「ビジネス基礎」, 「経済活動と法」などの科目で活用できます。ビジネスと売買取引に関連した学習で, カード・クレジット・消費者金融会社の問題点やしくみについて取り上げることができます。「財産権と契約」という点で, 契約概念の具体例として, 学習内容に取り組むこともできるでしょう。

【視点】

- 契約をめぐる相談や苦情が多いのですが, クレジット契約書の文面を実際に読ませたうえで, なぜ読む人が少ないのか, 形式・体裁などの問題点を検討させましょう。
- 消費者保護の法規制から契約の解除ができる制度を調べ, 実際に契約を解除させるクーリングオフの文章を書かせてみましょう。
- 悪質な商法の事例を集め, その問題点や原因・背景について話し合しましょう。

⑤ 「総合的な学習の時間」における活用例

「総合的な学習の時間」のねらいは, 以下の通りです。

- (1) 自ら課題を見つけ, 自ら学び, 自ら考え, 主体的に判断し, よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
- (2) 学び方やものの考え方を身につけ, 問題の解決や探究活動に主体的, 創造的, 協同的に取り組む態度を育て, 自己の在り方生き方を考えることができるようにすること。

具体的な活動例としては, 以下の諸点を学習指導要領で例示していますが, 各学校が生徒の実態に応じて, 自主的に展開することができます。

- ア 国際理解, 情報, 環境, 福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動
- イ 生徒が興味・関心, 進路等に応じて設定した課題について, 知識や技能の深化, 総合化を図る学習活動
- ウ 自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動

「総合的な学習の時間」を展開するにあたって大切なことは, 生徒の自主的な取り組みを尊重し学習を支援していくことです。それとともに, 調査研究, 発表や討論など体験的な学習, 問題解決的な学習やグループ学習などの多様な学習形態を工夫することが求められています。

テーマは, 「高校生の金銭感覚」, 「高校生と消費生活」, 「身近な消費者問題を考える」, 「ひとりだちのためのファイナンシャル・プランニング」など総合的, 横断的な内容を提示し, この『教材』(『きみはリッチ?—多重債務に陥らないために—』)が, 活用できることをガイダンス等の際に説明してください。

生徒が, 興味・関心を深めるための動機づけとして, 以下のような切り口があることを紹介してください。

- ① ヤミ金融って何だろう? —その現状・背景・実態・被害・対策を追究する!—

- ② 若者は多重債務者の予備軍か？ —若者の消費生活に迫る！—
- ③ 駅前でもらった貸金業者のティッシュから考える
—金利とは何か、金利理解がきみを救う！—
- ④ 私たちの金銭感覚 —収支に見合った生活は可能か？—
- ⑤ 金融情報を探る —駅前広告からTVコマーシャルが狙うもの—
- ⑥ クレジットカードは万能か？ —貸し借りの世界をのぞく—
- ⑦ 弁護士もCMの時代か？ —車内広告で多重債務相談をPR—

⑥「奨学金」との関連付け

奨学金で大学に進もうとする高校生も多いと思います。奨学金は、将来の夢の実現を目指して学業を続けるために非常に有益なものですが、貸与型の奨学金はあくまでも「借金」であること（返済が必要なこと）を十分に意識する必要があります。『教材』や本書で扱った知識は、奨学金を借りることを検討する際にも役立つと思われます⁷。

❖ 家庭生活のなかで

お子さんとの対話の機会も増えます！

どこの家庭にも、多少なりとも借金はあるのかもしれませんが。また、借金のできる人は社会的信用のある人ともいわれています。しかし、その借金に押しつぶされ、道を誤るようになってはたいへんです。

ある高校生が、家庭にあったクレジットカードを使ってキャッシング（金を借りる）をしてみたところ、10万円が出てきました。面白くなった少年は次から次へとキャッシングをし、ついに40万円もの大金を手にしたという話もあります。

カードを機械に入れれば、いとも簡単にお金が出てくることから、この少年には全く借金意識がなく、ほとんどを遊びに使ってしまいました。クレジット会社から督促があってはじめて親が知り、消費生活センターに相談することになったケースです。

消費生活の基礎である金銭の価値を認識し、クレジットやカードのしくみをきちんと理解しておくことが現代人の生活には不可欠になりました。また、物心ともに豊かな生活をおくるためにも大切な条件のひとつです。

このような内容の教育には、学校教育の場ばかりでなく、家庭教育として、保護者の果たす役割がきわめて大きくなります。その意味で、この『教材』は、家庭教育の参考書でもあります。また、この『教材』を囲んで、話し合うための話題も提供してくれることでしょう。

子どもたちの将来のために、保護者の労働経験や家計支出のやりくりの工夫など、愚痴ではなく事実を語り伝えることも必要です。新しい状況を生きる子どもたちのために、保護者の体験から伝えるべきものがあるでしょう。困難や苦しみとともに人生で大切なもの、人間らしい生活とは何かを話すときに、この『教材』（『きみはリッチ？—多重債務に陥らないために—』）は、そのなかだちになると思います。

⁷ 奨学金については、日本学生支援機構のホームページやパンフレット、金融広報中央委員会『ビギナーズのためのファイナンス入門』の用語解説などを参照ください。